オオタバコガ

○ 被害と発生生態

多くの作物を食害する広食性の害虫で、野菜ではトマト、ナス、イチゴ、キャベツ、ハクサイ等、花きではキク、カーネーション、トルコギキョウなどを加害する。

卵は新芽や花蕾の近くに１個づつ産み付けられ、孵化直後の幼虫は展開前の葉など柔らかい部分を食害する。幼虫は植物体内に潜る性質が強く、中齢以降になると果実や蕾、茎などに食入する。幼虫は次々に移動して加害するので、発生量は少なくても被害が大きくなる。

春先の発生は少ないが、夏から秋にかけて増加し、８月頃から被害が問題となる。年間４～５世代発生し、越冬は蛹の状態で地中浅く潜って蛹化する。

成虫は体長 15 ㎜前後の蛾で、雌は８～９日間に約 2000 個の卵を産む。幼虫の体色は淡緑色から褐色と変異が大きい。

○ 防除方法

（ア）耕種・物理的防除

・ほ場を見回り、新しい食害痕や虫糞が見られる場合、付近に幼虫がいるので見つけ次第捕殺する。

・施設栽培では開口部に防虫ネット（目合い４㎜）を設置し、成虫の侵入を防止する。

・摘心、摘花した腋芽や花蕾などに卵や若齢幼虫がついていることが多いので、ほ場外に持ち出し適切に処分する。

・黄色蛍光灯等を設置し、成虫の飛来を忌避するとともに交尾や産卵を抑制する。

（イ）薬剤防除

・果実等への食入後では薬剤の防除効果が劣るので、幼虫の発生初期に防除する。

・各種薬剤に抵抗性が発達しているため、薬剤散布後は必ず効果を確認する。

キャベツの被害

イチゴの被害

カーネーションの被害

中齢幼虫

老齢幼虫

成虫

（幼虫の体色や刺毛は個体変異が大きい）